

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2013年
今年度も懲りずに
春夏秋冬
特大号!



この1年を振り返ると…

平成24年度『てらこや埋文』も、昨年、一昨年に続き「春夏秋冬特大号」となってしまいました。来年度以降、**季刊**山口大学埋蔵文化財資料館通信への復活はあるのか…。

とは言え、埋蔵文化財資料館はいたずらに時を過ぎていたわけではありません。今年度も、多くの事業に取り組んだことをご報告すべく、第23号をお送りします。

【平成24年度実施事業一覧】

○遺跡調査

- ・吉田遺跡(吉田キャンパス)：産業動物実験施設工事に伴う予備発掘調査(平成24年7月2日～11日)
：図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査
(平成24年9月20日～11月14日)
：榎野寮新営工事に伴う予備発掘調査(平成24年11月16日～28日)
：第1学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査(平成25年2月4日～3月4日)
- ・御手洗遺跡(光キャンパス)：教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査(平成24年5月21日～8月16日)
工事立会8件：吉田遺跡3件、白石遺跡4件、御手洗遺跡1件

○展示活動

- ・山口県大学 ML 連携企画巡回展『風化させない記憶への一步～自然とともに～』 3大学に巡回
梅光学院大学会場(平成24年5月11日～6月26日)
徳山大学会場(平成24年7月2日～8月10日)
山口福祉文化大学会場(平成24年10月1日～11月9日)
- ・第33回企画展『遺跡に見る山口大学の原風景① 中世 村落 誕生』(平成24年5月28日～8月31日)
- ・第34回企画展『学生発！行動展示 遺物と向き合う』(平成25年2月12日～2月22日)
- ・平成24年度山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』(平成25年3月2日～6月28日) ※共催事業

○学生教育事業

- ・博物館実習「資料の取り扱いや整理・分類、資料調査・研究方法についての指導」
本学学生2名受け入れ、考古資料の研究方法を指導(平成24年7月31日・8月1日)

○社会教育事業

- ・第12回公開授業『古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう7～』
(平成24年7月28日・10月14日・10月27日)
- ・吉部小学校バス遠足(本学「吉部チューターズ」主催)小学生児童を対象にワークショップを開催(平成24年11月17日)

○情報公開事業

- ・山口大学埋蔵文化財資料館年報7
『埋蔵文化財資料館年報～平成21年度～』刊行
- ・館蔵資料調査研究報告書3
『見島ジーコンボ古墳群 第152・153・155・156号墳
出土資料調査報告』刊行
- ・平成23・24年度山口県大学 ML 連携事業報告
『風化させない記憶への一步～自然とともに～』
山口大学図書館、梅光学院大学博物館・図書館・東北
ボランティア実行委員会と共同執筆、刊行
(横山成己)



吉部小学校バス遠足にて開催したワークショップ風景



埋蔵文化財資料館 平成 24 年度の埋蔵文化財保護活動

平成 24 年度、当館は吉田キャンパス（吉田遺跡）にて本発掘調査 1 件、予備発掘調査 3 件、工事立会 3 件を実施しました。光キャンパス（御手洗遺跡）では本発掘調査 1 件、工事立会 1 件を、白石キャンパス（白石遺跡）においては工事立会 4 件を実施しています。ここでは、実施した調査をいくつかご紹介します。

吉田キャンパスでの発掘調査

○図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事に伴う本発掘調査（平成 24 年 9 月 20 日～ 11 月 14 日）

図書館の北西角部が増築されることを受け、建設予定地にて本発掘調査を実施することになりました。建設予定地の西に隣接する図書館新館敷地においては、昭和 57 年（1982）に行った発掘調査により、弥生時代や古墳時代の溝、中世の自然河川などが確認されていたため、この度の調査においても同時代の遺構の存在が予想されました。

掘削を進めていくと、調査区全域が過去において谷地形であったことが明らかとなりました。谷の肩部は調査区の北西隅と南東隅にわずかに残っていたため、当地点における谷幅は約 15m であったことが判明しています。

な～んだ、谷が見つかっただけか…と思うことなかれ。実はこの谷を埋めた土中から土器や石器、木製品、金属器など総量 100 kg を超えるおびただしい量の遺物が出土しているのです。

出土した土器の大半は弥生土器。しかも完形に近いものが多く、表面もあまり摩耗していません。このことから、弥生時代において谷周辺地に集落が営まれていた可能性が高まりました。おそらく、弥生人達は割れて不要になった土器や石器を谷底に投げ棄てていたのでしょう。

石器と言えば…こちらでも大発見。これまでに長い調査歴をもつ吉田遺跡ですが、完全な形の石庖丁（いしぼうちょう：弥生時代の穂摘具）は出土していませんでした。今回の調査で、初めて完形の石庖丁、しかも山口県では発見例の少ない大型石庖丁が出土したのです（写真右）。

さらには、この谷は埋没後も地下水脈が通っていたようで、通常は土中腐敗する木製品も、極めて良好な状態で数多く出土しています。種類としては木錘（もくすい：こもなどを編む道具）、槌状木製品、板材などが確認されています。

この谷は、弥生時代より埋没が始まったようですが、古墳時代以降上部域から幾度も鉄砲水に襲われており、埋積土は激しく攪拌されていました。そのような状況下でも、丁寧に土の堆積状況を検討したところ、谷は南東方向から徐々に埋まっていき、中世期には北西側に幅半分まで減退していたことが明らかとなりました。出土遺物から見ると、室町時代後半期にはほぼ平坦化したと考えられますが、現在図書館敷地北側を流れる用水路はこの谷に由来するものと推定されます。

最後にもう一つ重大な発見をご報告。谷埋土の最上部層より、銅製の帯飾り「丸鞆（まるとも）」が発見されています。この帯び飾りは古代の役人（律令官人）が身に着けたもので、吉田遺跡では過去に石製の丸鞆、銅製の蛇尾（だび：ベルトの尻に付ける金具）が出土しており、古代において吉田の地に官衙（かんが：古代の役所）が存在したことを示す資料と見なされてきました。

今回出土した丸鞆は銅製であり、表面に一部漆（うるし）が残っていること、また表金具と裏金具がはずれずに残っていることなどから極めて重要な資料となることが予想されます。来年度以降、出土品の整理作業が始まります。続報をお待ち下さい！



図書館増築部調査区で確認された埋没谷



谷埋土から出土した弥生土器



谷埋土から出土した弥生時代の大型石庖丁



地下水脈が通るため木製品も良好に残る

○榎野寮新営工事に伴う予備発掘調査

(平成 24 年 11 月 16 日～ 11 月 28 日)

吉田キャンパス南東端部にいちする現榎野寮(女子学生寮)の南側空き地に新たに女子学生寮を建設する計画が立てられたことを受け、建設予定地にて予備発掘調査を実施しました。

建設予定地の東側丘陵上では、昭和 41 年(1966)に発掘調査が実施されており、古代から中世にかけての集落跡と見られる多数の柱穴や溝が確認されています(写真右上)。現況地形を見ると、現榎野寮はこの丘陵を約 3 m ほどカットした場所に建設されているように思われるのですが、東から西にかけて降下する丘陵であるため、建設予定地の西側まで削平がおよぶのかどうか不明確な状況でした。そのため、予備発掘調査では、建設予定地内に東西 37m、南北 11.8m の L 字形調査区を設定し、地下の様相を確認することとなりました。

調査の結果、推測どおり調査区の東部は表土の直下が地山となっており、遺跡が残っている状況にありませんでした。

一方、調査区西部においては盛り土の下に本学吉田キャンパス移転前の棚田の痕跡を確認しました。旧耕土下の地山が遺構面であり、溝を 7 条確認しましたが、いずれも田畑の耕作に伴うものと推測されるため、建設予定地内に顕著な埋蔵文化財が発見される可能性は極めて低いと判断し、予備発掘調査をもって埋蔵文化財保護対応を終了することとなりました。

この調査からも分かるように、本学吉田キャンパス移転時の造成工事等により、本来は残っていたであろう遺跡がすでに破壊されている事例は数多くあります。これも発掘調査が明らかにする土地の歴史の一つと言って良いでしょう。

○第 1 学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査

(平成 25 年 2 月 4 日～ 3 月 4 日)

吉田キャンパス南西部に位置する第 1 学生食堂(ポーノ)の南西隣には、本学吉田キャンパス統合移転時に確認され、以降「遺跡保存公園」の名称で現地保存されている弥生時代の集落跡が存在し、吉田キャンパスにおける埋蔵文化財保護活動のシンボリックな場所となっています。

その第 1 学生食堂を南西方向に増築させる計画が立てられたことを受け、予備発掘調査を実施することになりました。

調査前は、弥生時代の集落跡がさらに北東方向に広がることを予想していましたが、調査の結果、増築予定地はすでに大きく削平されており、確認された遺構はピット 3 基と自然河川のみでした。

集落跡がすでに消滅していることはなんとも残念なことです。自然河川からもあまり遺物が出土していないことから、本発掘調査は実施せず、工事立会にて埋蔵文化財の保護を行うことになりました。

光キャンパスでの発掘調査

○教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査

(平成 24 年 5 月 21 日～ 8 月 16 日)

当工事計画に対しては、平成 23 年度に予備発掘調査を実施しており、平成 24 年度は下水道計画地の中で埋蔵文化財が発見される可能性が高い 8 箇所において本発掘調査を実施することになりました。

各調査区では、古墳時代のもものと見られるピットや土壌、落ち込みが多数確認され、遺跡地内における遺構の分布を推定する手掛かりを得ることができました。。

本発掘調査終了後、工事予定地の未調査地点の工事立会を 11 月 14 日まで実施しました。この調査においては、遺物包含層よりおびただしい量の古墳時代の須恵器、土師器が出土しています。これらの遺物は時期差が少ないようで、器面もあまり摩耗していないという特徴も見られます。今後の資調査理により、重要な発見があることが期待されます。

(横山成己)



昭和 41 年建設工事途中の榎野寮(女子学生寮)



現在の榎野寮と新榎野寮建設予定地での発掘調査



第 1 学生食堂増築予定地における予備発掘調査風景



光学校下水道接続工事予定地における本発掘調査風景



埋蔵文化財資料館 平成 24 年度の展示活動

第 32 回 企画展『山口大学の原風景① 中世 村落 誕生』を開催

山口大学吉田キャンパスが所在する「吉田遺跡」は、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財を包蔵する複合遺跡として知られていますが、これまで各時代の遺構・遺物の分布に疎密が見られることが指摘されてきました。

その指摘の一つが、鎌倉時代の確実な遺構が未発見であること、そしてその後出現する室町時代の集落範囲が不明確であることです。

平成 21 年度の吉田遺跡調査において、新たに室町時代の集落跡が 2 地点で確認されたことを受け、平成 24 年度最初の企画展では、吉田遺跡において中世集落が何時、どのような範囲に成立するのかを考察する展示を開催することになりました。

展示では、これまでに室町時代から江戸時代の遺構・遺物が確認されたキャンパス 4 地点（学生会館から大学就職支援施設（O-HARA）地点、山口大学動物医療センター北側地点、メディア基盤センター棟地点、第 2 体育館地点）から出土した実物資料を公開するとともに、江戸時代中期に描かれた古図『地下上申絵図吉田村』（山口県文書館所蔵）と遺跡において発見された集落域との比較展示を行いました。

5 月 28 日（月）～ 8 月 31 日（金）の会期中、548 名の来館者を迎えることができました。「山口大学の原風景」は、今後時代を遡りながらシリーズ化していく予定です。ご期待下さい。



第32回企画展
『山口大学の原風景① 中世 村落 誕生』展示模様

第 33 回 企画展『学生発！ 行動展示 遺物と向き合う』を開催

第 32 回企画展終了後の平成 24 年 9 月以降、埋蔵文化財資料館は学内埋蔵文化財保護業務に忙殺されたため、予定していた展示活動を実施できずにいました。休館すること実に 5 ヶ月。当館をご活用いただいているコアなファンの方々には多大なるご迷惑をおかけしました。

久しぶりに開催した企画展は、当館初（日本初か？）の歴史民俗系博物館施設における「行動展示」をテーマとしたものとなりました。

考古学は、実物資料に直接的に接して情報を読み取る学問です。本学において考古学を学んでいる学生が、研究素材となる遺跡出土品を前にどのような行動をとっているのかを公開すると同時に、パネルによりその行動内容の解説を行いました。

展示には、人文学部考古学研究室 3 年生の男女 7 名にボランティアスタッフとして協力いただきました。ただし、「行動展示」であるため後期授業および後期試験終了後に開催せざるをえず、長期間の展示も負担となるため、当展会期は企画展として過去最短の 2 週間、平成 25 年 2 月 12 日（火）～ 2 月 22 日（金）までの開催となりました。会期中 28 名の方々に入館いただきましたが、遺跡出土資料に対し熱心に向き合う若者を熱心に観察する姿が見られました。短期間の展示でしたが、意義のある取り組みとなりました。



第33回企画展
『学生発！ 行動展示 遺物と向き合う』展示模様

平成 24 年度山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催

平成 25 年 3 月 2 日（土）より、当館展示室にて山口大学所蔵学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を開催しています。本学には、所蔵される貴重学術資料の保存・修復・整理事業を実施するため「山口大学所蔵学術資産継承検討委員会」が組織されています。今回の展示では、平成 24 年度までに実施した事業成果展として、文書・典籍・考古・民俗・鉱物岩石・美術の 6 分野から貴重学術資料が展覧されています。当展は前期・後期の 2 部構成となっており、ゴールデンウィーク終了後の 5 月 7 日（火）～ 6 月 28 日（金）まで後期展が開催されます。

埋蔵文化財資料館は、当展を学内連携展示と位置付け、共催施設として施設を提供すると同時に、前期・後期にわけて国指定史跡：見島ジーコンボ古墳群出土資料を公開しています。

当館展示室で日頃目にすることない多分野にわたる貴重学術資料が多数展示してあります。ぜひ一度足をお運び下さい。



平成24年度山口大学学術資産継承事業成果展
『宝山の一角』展示模様

山口県大学 ML 連携企画巡回展

『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』全事業終了

昨年度刊行した山口大学埋蔵文化財資料館通信第 22 号では、山口県大学 ML (ミュージアム・ライブラリー) 連携企画巡回展『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』山口大会場の模様をご報告しました。

この企画巡回展は、2 年前に東日本を襲った大震災の復興支援として計画されたものです。よって震災後 1 年となる平成 24 年 3 月 11 日より山口大会場を皮切りに、その山口県西部、東部、北部と巡回して行きました。巡回のスケジュールは以下の通りです。

【巡回スケジュール】

- ・山口大会場 平成 24 年 3 月 11 日 (日)～4 月 27 日 (金)
- ・梅光学院大会場 平成 24 年 5 月 11 日 (金)～6 月 26 日 (火)
- ・徳山大会場 平成 24 年 7 月 2 日 (月)～8 月 10 日 (金)
- ・山口福祉文化大会場 平成 24 年 10 月 1 日 (月)～11 月 9 日 (金)

山口県初の大学所蔵学術資料巡回展となったこの企画。主催である当館と本学図書館、梅光学院大学博物館・図書館、そして展示協力いただいた梅光学院大学東北ボランティア実行委員会諸氏が一致団結し、会場を提供いただいた徳山大学、山口福祉文化大学の方々の多大なる支援を受けながら、無事巡回を終えることができました。関係者の皆さま、ありがとうございました。

各会場とも多数の観覧者を迎えることができ、設置したメッセージ布には被災者・被災地への声が増えました。また、会場にて募った被災地への義援金は、4 会場を通じて 103,083 円に達しました。この義援金は、当初の目的通り「公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団＜東日本大震災被災文化財の救援と復旧のため＞」宛に送金させていただいています。会場に足を運んでいただいた皆さま、義援金とともにメッセージを寄せていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

各会場では 1～2 回ミュージアムトーク (展示解説) を開催しましたが、こちらも多くの参加者に恵まれました。各会場とも展示解説後には様々な質問が飛び交い、熱気を帯びた会となりました。

巡回展示終了後、山口県 ML 連携事業の活動を広く世に公開するため、梅光学院大学図書館・山口大学図書館の尽力により 11 月 20 日から 22 日にかけて開催された「第 14 回図書館総合展」のポスターセッションに参加することができたことも大きな成果と言えます。

最後に、震災後 2 年が目前に迫った 2 月 19 日から 2 月 21 日にかけての 3 日間、被災地にて成果報告展を含む活動を実施しました。初日は東北学院大学災害ボランティアステーションを訪ね、事業報告会と成果展示、メッセージ布等の贈呈を行い、2 日目は博物館・図書館チームに分かれ、被災地の大学博物館・図書館を訪問しました。当館スタッフは、東北学院大学博物館にて災害時の博物館の状況や以降の対応、津波災害に対する博物館施設の備えなど伺い、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館にて震災後の博物館の被害や対応措置、さらには宮城県・仙台市における大学博物館の連携状況など、貴重な話を伺うことができました。3 日目は、この度の連携事業を「自然とともに」というテーマで実施していることから、被災地の環境の復興状況を知るため、仙台市荒浜地区南長沼周辺の訪問を行いました。訪問地の田畑には新たな土が入れられるなど、復興の息吹が感じられましたが、未だ復興の第 1 歩を歩み始めたに過ぎないように感じられました。

およそ 1 年をかけて実施した今回の山口県 ML 連携事業。被災地から遠く離れた地に暮らす私たちも、風化させない記憶への第 1 歩を踏み出したに過ぎません。また大学 ML 連携も、小さな 1 歩を踏み出したばかりです。この歩みを続け、また次世代に引き継ぐことができるよう、活動を展開させて行きたいと考えています。

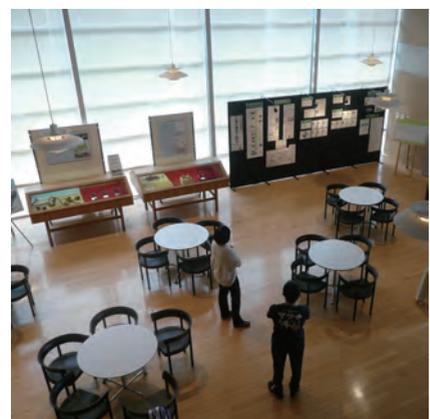
(横山成己)



梅光学院大会場
ミュージアムトークの模様



徳山大会場
ミュージアムトークの模様



山口福祉文化大学での展示模様



東北学院大学での山口県大学 ML 連携企画巡回展
成果報告の模様



今年も吉田キャンパスで古代米づくりに挑戦しました！ —第12回公開授業—

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で12年目を迎えました。

今年度の公開授業は平成18年度から取り組んでいるテーマ、日本のお米のルーツとされる赤米を実際につくり、土器などで調理して食べてみるという内容です。授業は山口大学農学部附属農場と共催で延べ3回に渡って行い、小学生～高校生8人、教育学部学生4名、一般12名、合計24名の皆様に参加していただきました。

赤米の品種昨年と同じ「紅吉兆」という品種（もち米）です。6月16日に田植えを行う予定でしたが、残念ながら雨のため、第1回目の授業は中止しました。このため、田植えは農学部附属農場に行っていただきました。

7月30日（土）—稲の観察と除草・土器づくり—

当日は朝から快晴で、無事に開催することができました。山内館長の挨拶の後、水田に移動し、農学部附属農場・技術専門職員の長砂さんから水田に生える雑草についての説明を受け、稲とヒエの違いなどを学習しました。この後は、除草です。水田は足がぬかるんで大変でしたが、作業は順調に進みました。しかし、あと少しで終了というところで、突然の豪雨に見舞われました。このため除草を中止し、実習室に戻って土器づくりに挑戦しました。短時間でしたが、壺・鉢・動物など、参加者それぞれに古代をイメージした個性的な土器ができました。

10月14日（土）—土器焼成と収穫—

まず、前回つくった土器を「覆い焼き」で焼成するため、泥窯づくりに挑戦しました。作業は、昨年と同様、考古学部との合同で行いました。この後は収穫です。稲は台風にも耐え、最終的に長さ約70～80cmにまで成長しました。まず、模造した石庖丁などを使った穂摘みで収穫した後、残った稲を鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。また、翌日の午後、土器の大半を割れることなく焼成することができました。

10月27日（土）—脱穀・舂すり、赤米を食べる—

当日は時折小雨が降るあいにくの天気でしたが、午前中は箸こぎ、臼と杵による舂すり、てみとザルによる選別と足踏み脱穀機・精米機による作業を体験しました。午後からはいよいよ赤米の試食です。今回も土器による炊飯のほか、模造した古墳時代の甑（こしき）と甕（かめ）、竈（かまど）形土器によって赤米を蒸すことに挑戦しました。炊飯は成功しましたが、火力不足のためか時間内にお米を蒸すことはできませんでした。炊飯した赤米は歯ごたえがあるものの美味しく甘みがありました。このほか、おかずには朴葉焼きや、豚汁、あさりのすまし汁をつくりましたが、これらも美味しく好評でした。

公開授業を終えて

今回の公開授業では、古代米づくりをテーマにしてから、はじめて田植えが中止になるというアクシデントがありましたが、以後、3回の授業は無事に終了することができました。

公開授業を終えて、参加者からは「昔の人の苦勞を知り勉強になりました（小学生）」「お米のありがたみがよく分かりました（一般）」などの声が寄せられ、好評でした。

来年度も埋蔵文化財資料館では、古代米づくりに挑戦する予定です。どうぞご期待ください！（田畑直彦）



除草



穂摘み



炊飯した赤米



参加者の皆さん



内業のお仕事紹介 Vol.2

土器の接合・復元

皆さんはこれまでに学校の教科書や、資料館・博物館などで、きれいに復元された土器を何度かご覧になった事があるかと思います。当館でも様々な展示活動を行っていますが、そこでよく耳にするのが「どうやってバラバラの破片を接合するのか」「どうやってこの形に復元するのか」というご質問です。

このコーナーでは皆さんの疑問にお答えするべく、内業の作業の一つである、土器の接合から復元までの作業を詳しくお見せしていきます。



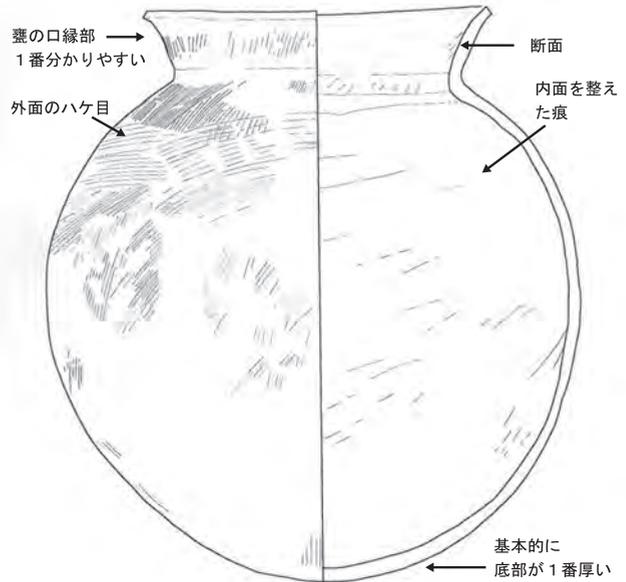
土器の接合 その2 甕を接合する ～前編～

今回は甕の接合をお見せします。

接合を始める前に、まずは右図をご覧ください。これは接合を終え、実測・トレース(※)で図化した甕です。これを見るとハケの痕があったり、場所によって湾曲の仕方、厚みに違いがあることが分かります。その他、上の写真中央の甕のようにススの痕など、色の違いもあります。

どんなに小さな破片にも、必ずこのようなヒントがあるので、それらを手がかりにくつつく破片を探します。

(※)実測・トレースについては、てらこや埋文5・6号に掲載しております。当館のホームページにて公開しておりますので、そちらもご参照ください。



(※今回はレプリカの甕を使用しています)

それでは実際に接合の作業を始めます。…と言っても、いきなり接合するのではなく、最初に下準備をします。

まずは上記のヒントを参考に、破片を丁寧に分類します。分かりやすい口縁・底部など部位別、そして模様、厚み、色など、似ている破片別に分類します。土器の外面だけでなく、内面も参考にしましょう。

くつつく破片が見つかって、すぐに接合しません。パズルのようにくつつく破片を並べ、全体像を把握し、どのように作業を進めるか考えて接合します。

以上が基本的な方法ですが、小さい破片などは今後の作業を効率よく進めるため、この段階である程度接合することもしばしばあります。自分にとって、やりやすい方法を模索することも大切です。

次回はいよいよ土器を接合します。

(乃美友香)

平成 24 年度 埋蔵文化財資料館の活動

- 3/11(日)～4/27(金)
山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一步～自然とともに～』開催
期間中入館者総数 233 名
- 4/7(土)『風化させない記憶への一步～自然とともに～』ミュージアムトーク開催
4/23(月)～5/18(木) 萩博物館にて見島ジーコンボ古墳群出土資料調査
- 5月 5/11(金)～6/24(火)
山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一步～自然とともに～』梅光学院大学にて開催
5/21(月)～8/16(木)
光構内教育学部附属光学校下水道接続工事(御手洗遺跡)で本発掘調査を実施
- 5/28(月)～8/31(金)
第33回企画展『遺跡に見る山口大学の原風景① 中世 村落 誕生』開催
期間中入館者総数 548 名
- 6月 7/2(月)～8/10(金)
山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一步～自然とともに～』徳山大学にて開催
7/2(月)～11(水)
吉田構内産業動物実験施設工事(吉田遺跡)で予備発掘調査を実施
7/28(土) 第12回公開授業
『古代人の知恵に挑戦!—古代のお米をつくってみよう7—』
第1回授業(稲の観察・土器づくり)開催 参加者 22 名
- 8月 8/7(火)～11/20(火)
光構内教育学部附属光学校下水道接続工事(御手洗遺跡)で立会調査を実施
8/24(金) 白石構内教育学部附属山口中学校看板表示設置工事(白石遺跡)で立会調査を実施
- 9月 9/20(木)～11/14(水)
吉田構内図書館改修工事(吉田遺跡)で本発掘調査を実施
9/21(木) 吉田構内人文・理学部管理棟 EV 設置工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 10月 10/1(月)～11/9(金)
山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一步～自然とともに～』山口福祉文化大学にて開催
10/14(日) 第12回公開授業
『古代人の知恵に挑戦!—古代のお米をつくってみよう7—』
第2回授業(稲の収穫・土器焼成)開催 参加者 19 名
10/23(金) 白石構内教育学部附属幼稚園遊具設置工事(白石遺跡)で立会調査を実施
10/27(土) 第12回公開授業
『古代人の知恵に挑戦!—古代のお米をつくってみよう7—』
第3回授業(お米の試食)開催 参加者 28 名
- 11月 11/17(土) 吉部小学校バス遠足:小学生児童を対象にワークショップを開催
11/16(金)～28(金)
吉田構内榎野寮新営工事(吉田遺跡)で予備発掘調査を実施
11/16(火)・20(水) 吉田構内農学部附属農場本館改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 12月 12/11(火) 見島ジーコンボ古墳群現地調査
- 1月 1/21(月) 吉田構内図書館改修工事関連正門横駐車場掘削工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 2月 2/4(月)～3/4(月)
吉田構内第1学生食堂増築工事で予備発掘調査を実施
2/12(月)～22(木)
第34回企画展『学生発!行動展示 遺物と向き合う』開催
期間中入館者総数 28 名
2/19(火)～21(木)
山口県大学 ML 連携企画巡回展成果展・メッセージ布等贈呈を東北学院大学にて実施
- 3月 3/2(土)～4/25(木) 平成24年度山口大学学術資産継承事業成果展
『宝山の一角』開催 ※共催事業
3/5(火) 白石構内教育学部附属幼稚園舎テラス取設工事(白石遺跡)で立会調査を実施



吉田構内産業動物実験施設建設予定地での発掘調査風景



山口県 ML 連携企画巡回展景
徳山大会場設営風景



山口県 ML 連携企画巡回展景
山口福祉文化大会場ミュージアムトーク



山口県 ML 連携事業
東北学院大学でのメッセージ布贈呈式

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信

第23号

『てらこや埋文』2013 春夏秋冬特大号

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

【Tel/Fax】083-933-5035

【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp

【HP】http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2013. 3. 29.